

広島市古田公民館

本公民館は、昭和 63 年に開館。古田地区は、高齢化率 19.0%、年少人口 15.3%と、広島市では比較的世代間の均衡がとれたエリア特性がある。(広島市全体ではそれぞれ 24.6%、13.9%。平成 30 年 3 月末現在)。地域から愛され、地域とともに成長する公民館をめざし、住民が集い、学びあい、結びあう場となるよう、活動・事業を展開している。



「このまちにくらしたいプロジェクト」は、古田中学校の生徒と古田地区住民が一緒になって、30 年後の地域の暮らしを考え、行動するため、H25 年度に立ち上げた事業である。中学生の発案で「みんなが幸せに使える公園」をテーマにワークショップをしたり、体験イベントを実施したりするなど、公民館が多世代の居場所作りの拠点となり、地域住民の絆が深まっている。

尾道市向東公民館

本公民館は、旧公民館の老朽化に伴い、平成 2 年 1 月に尾道勤労者総合福祉センター(サンボル尾道)として建設された建物に移転した。高齢化率 37%と高い地域であるが、家庭教育支援団体やNPO法人など、活発に活動している社会教育関係団体が多数あり、公民館がコーディネートし、様々な事業を実施している。



「防災フェア in 向東!」は、「地域を繋ぐ」をコンセプトに、消防団、民生委員会、公衆衛生協議会、保健推進委員会、体育協会など、16 団体の協力を得て実施。400 人を超える住民が参加し、地域団体の繋がりを深め、郷土愛の育成や地域への愛着心の醸成が図られている。

廿日市市串戸市民センター

本市民センターは、昭和 57 年4月に公民館として開館。平成 20 年4月に市民センターに名称を変更し、生涯学習及びまちづくりの拠点となった。若い世代の移住者が多い地域で、幼年人口は増加しているが、町内会加入率が 59.9%(廿日市市全体の加入率は 74.7%。平成 29 年度)と低く、地域交流が弱いという課題がある。



そこで、地域住民の交流を促進し、地域の課題解決に貢献するために、「ぼくのまちわたしのまちプロジェクト」を実施している。このプロジェクトは、地域の資源(伝統、施設や団体、商店街を含む)を活用し、若い世代の利用を増やすことを目的とした事業である。「串戸のピースを発見しよう」「けん玉の広場」など、子供と地域住民が関わり、気づきや学びを深めるイベントをすることで、市民センターを拠点とした地域住民の交流が促進され、地域への愛着が育まれている。